

令和元年度 第一回足立区経済活性化会議

会議録要旨

令和元年7月1日(月)
あだち産業センター

(開催概要)

会 議 名	令和元年度第1回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	令和元年7月1日(月)			
開催場所	あだち産業センター			
開催時間	午後2時00分から午後4時00分まで			
出欠状況	委員現在数 19名 出席委員数 14名 欠席委員数 5名			
出席委員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	帯川 利之
	青木 誠一	伊藤 治光	入江 洋介	小早川 真樹
	真田 里子	瀧野 静江	なかだ えり	本山 功
	山崎 健	渡井 良昌		
事務局	<p>(出席職員)</p> <p>吉田産業経済部長、近藤企業経営支援課長、望月産業振興課長 浅見足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、山根足立区勤労福祉サービスセンター担当部長 齊藤産業政策課管理係長、立石企業経営支援課相談・融資係長 早川企業経営支援課創業支援係長、松岡産業振興課ものづくり振興係長 (事務局)産業経済部産業政策課 産業経済協創担当係 海老原 管理係 早川</p>			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	<p>1 足立区経済活性化会議新委員の紹介</p> <p>2 審議事項 (1) 足立区経済活性化会議 専門部会の一部廃止について (足立区経済活性化条例の改正について)</p> <p>3 報告事項 (1) 区内の景況及び新設法人数の推移等について (2) 地域経済活性化基本計画 活動指標について(平成30年度実績) (3) 産業経済部既存事業の分析と分析に基づく令和元年度事業委託について (4) 第2回「あだちの輝くお店セレクション」の実施結果について</p> <p>4 情報提供 (1) 産業展示会「あだちメッセ」の開催結果について (2) 平成30年度「足立ブランド企業」の認定について (3) 平成30年度から令和元年度現在の観光イベント開催結果について</p>			

(会議録要旨)

海老原産業経済協創担当係長

みなさま、こんにちは。定刻になりましたので、「令和元年度第1回経済活性化会議」を開催させていただきます。このたびは、皆様ご多用のところ本会議にご出席を賜り、深く御礼申し上げます。ありがとうございます。私は事務局を担当しております産業政策課産業経済協創担当の海老原でございます。よろしくお願いたします。なお、本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けております。また、情報公開の関係で、庁舎2階にあります区政情報課におきまして、委員のみなさまの名簿・会議録・会議資料を公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。また会議録作成のために、本日の会議を録音させていただきます。こちらもご了承ください。加えて、本日は産業経済部の管理職、経済活性化会議事務局職員のほか、産業経済部の係長が同席させていただきます。

次に、本日の委員数を報告いたします。

委員定数19名、出席委員14名であり、本日の会議が成立していることを報告いたします。

それでは、本年度最初の会議で、人事異動により産業経済部内の管理職に異動がありましたのでご紹介いたします。

まず、産業政策課長については、今年度より部長の吉田が兼務させていただきます。

続いて、プレミアム付商品券担当課長 松本でございます。

消費税10%への引き上げが予定されていることに伴い、住民税非課税者等を対象とした、「令和元年度足立区プレミアム付商品券」を販売する予定となっており、この事務を担当する時限的組織が、産業経済部に置かれており、松本がその事務を担当いたします。

続いて、勤労福祉サービスセンター担当部長、山根でございます。

また、昨年度から引き続き、企業経営支援課長は近藤が、産業振興課長は望月が、勤労福祉サービスセンター事務局長は浅見が、観光交流協会事務局長は高橋が勤めさせていただきます。

それでは、吉田産業経済部長よりご挨拶申し上げます。

吉田産業経済部長

本日はお忙しい中、また足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。限られた回数しか開催できていない本会議ではございますが、その中で出来る限り皆様に情報提供をさせていただき、ご意見をいただき、今後の施策に活かしてまいりたいと考えております。また、昨年度新たに委託を行った内容についても、本日ご報告させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

海老原産業経済協創担当係長

続きまして、新たに委員となられる方をご紹介させていただきます。

東京商工会議所足立支部サービス産業分科会分科会長 伊藤治光様でございます。ご挨拶を頂戴したいと思います。伊藤様、よろしくお願いたします。

伊藤委員

【自己紹介】

海老原産業経済協創担当係長

ありがとうございました。

なお、池村 恵一様、大坪 昭寛様、秋山 栄一様、阿部 忍様、鈴木 又右衛門様は所用につき本日、ご欠席です。

それでは、議事を進行していただく前に、本日の配布資料を確認させていただきます。

次第、「資料1」委員名簿、「資料2」席次表、「資料3」会議資料、別添資料 平成30年度産業施策構築基本設計委託報告書、以上です。お手元にそろっていないものがございませ

たら、お声かけください。不足資料がないようであればこの後の議事進行を、中根会長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

中根委員

本日は審議事項や報告事項など、議題が多くございます。次第に沿ってスムーズに進行してまいりたいと思います。それでは、審議事項について、吉田部長より説明をお願いします。

吉田産業経済部長

資料1ページをご覧ください。審議事項としてあげさせていただいた、経済活性化会議専門部会の一部廃止についてご説明いたします。産業経済部内の4つの選考委員会について、これまで本会議の専門部会として位置づけておりましたが、専門的な内容の審査に対応するため、本会議の委員以外の方にも選考に加わっていただいております。この方々は、正式な委員ではなく、参考意見をいただく方という位置づけでした。今後、審査する内容がより専門化、多様化する中で、こうした状況に対応した選考を行うためには、様々な人材を正式な委員として委嘱し、審査を行っていく必要があります。現在専門部会として位置づけている4つの選考委員会を、専門部会としては廃止し、附属機関として位置づけたいと考えております。その他、実績のない会議等については、廃止したいと考えております。今後も、多様な人材に選考や、選考の先の伴走的な支援にも関わっていただきたいと考えております。

専門部会としては、主に計画の改訂作業時に開催している第一から第四専門部会のみを残し、その他を廃止し、シンプルな内容とするものです。なお、附属機関となる各選考委員会の委員構成要件等については、規則に定める予定であり、規則の内容を現在検討しております。

中根委員

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明に対して、質問等がありますか。なければ、事務局から説明があったとおり、経済活性化会議の6つの専門部会を廃止し、4つの専門部会とすることについて、異議はありませんでしょうか。

それでは異議なしということで、今後は4つの専門部会といたしますので、よろしくお願いいたします。

続いて、次第の3、報告事項についてです。担当の課長より、報告をお願いいたします。

まず、区内の景況及び新設法人数の推移等について、吉田部長より報告をお願いします。

吉田産業経済部長

5ページをご覧ください。区内の景況及び新設法人数の推移等についてご報告いたします。

まず景況については、金融機関の調査内容を区が購入し、民間企業に分析をお願いしているものです。ここで表記されているのは、DI値というものです。各企業さんに現在の業況や今後の見通しについて、3ヶ月ごとにアンケート調査をとったものになります。この調査は業況が上向くと考える人が多いか、悪くなると考える人が多いかの割合をとっておりますので、傾向を掴むための調査として実施しております。

6ページをご覧ください。長期に渡る傾向がこの表で確認することができます。この表では、業種ごとに折れ線グラフでDI値の数値を表しております。リーマンショックの頃がこの表の真ん中あたりになりますが、折れ線グラフが落ち込んでいるかと思えます。

その後、長期間にわたり、日本全体の景況が緩やかに回復していると言われる中で、足立区の景況についても、リーマンショック時から右肩上がり推移しているのがお分かりいただけると思えます。

5ページにお戻りください。こちらに記載のとおり、区内企業の倒産動向については、全国的な状況と同様に落ち着いております。一方、区内の新設法人数については、これまで右肩上がり増加をしておりましたが、平成30年度の新設法人数は前年度の数値を大きく下回っております。この原因については、未だ詳細な分析を行っておりませんが、10ページに記載の業種別新設法人数を見ますと、建設業の新設法人数が減少しており、減少要因の一つと考えられます。

全体の企業数としては、廃業数が新設法人数を上回る状況から減少傾向が続いており、この5年で数にして2千件ほど事業所数が減少しております。廃業の原因としては、経営者の高齢化が

主因と考えられています。以上でございます。

中根委員

今の報告について、各委員から何かご発言はありませんか。

渡井委員

倒産と、廃業については、区別しているのか。

吉田産業経済部長

倒産と廃業は区別しております。倒産は、資金繰りがつかず、これ以上会社経営が続けられない状態を指し、廃業は自主的に会社経営をやめることを指しています。

渡井委員

自社で独自に帝国データバンクのデータを入手しているが、この10年の間、倒産件数は過去最高となっている中で、足立区の倒産件数が落ち着いているのは、すごいことだと考えている。

吉田産業経済部長

一時、倒産件数が増えた時期はあったが、ここ2、3年の倒産件数は東京都全体の傾向として落ち着いていると認識している。これは、倒産のピークが過ぎたことや、業種によっては企業の淘汰が済んだことなどが要因と考えられる。また、国外から工場が戻ってきている事例や、下請け企業が安定して仕事を受注できているような状況を、企業訪問をする中で見聞きしている。リーマンショックを経験された区内企業が、区のサービス等も使いながら、油断することなく、慎重に経営をされており、そのことも倒産にいたらずに済む要因となっている可能性がある。

渡井委員

帝国データバンクのデータによれば、飲食業、特に居酒屋等の減少数が全体の減少数に占める比率が大きいとの記載があったが、足立区ではそのような状況があるのか。

吉田産業経済部長

ここ数年で一番金額の大きい倒産が、台所用品を扱う会社であったのは把握しておりますが、居酒屋等の廃業が多いという認識はもっておりません。

中根委員

その他、各委員から何かご発言はありませんか。なければ次に地域経済活性化基本計画活動指標について、吉田部長より説明をお願いします。

吉田産業経済部長

11ページをご覧ください。経済活性化基本計画に記載した活動指標について、経済活性化会議にて毎年報告をさせていただいております。今回は、事業の開始に伴い新たに4つの目標値を設定いたしました。具体的には、昨年度より足立成和信用金庫さんと区で、創業者に対する家賃補助を行っており、これをオフィスの確保支援に係る事業の指標として採用し、こちら昨年度より実施しております。起業家ネットワーク等の参加企業数を、企業間をつなぐプラットフォーム構築事業に参加している企業数の指標として採用しております。また、小規模事業者経営改善補助金の補助件数を、区が実施する経営改善に係る事業の指標として採用し、輝くお店セレクションの推薦を呼びかけるための情報発信数を、個店の支援に関する事業の指標として採用いたしました。こちらの事業については、後ほどご説明いたします。

続いて12ページをご覧ください。今後、目標値の設定を予定している指標が3つあり、これで、事業開始後に設定するとしていた目標値が全て設定できる見込みです。事業承継に関すること、働きやすい職場環境づくりの指標等、今後目標値を設定してまいります。また、目標値を上方修正したものが5つ、実績と目標値の大きな乖離が見られ目標値の見直しを行ったものが2つございます。大きく数値が動いている部分としては、13ページの真ん中に記載のある、起業、創業の相談対応件数や、15ページに記載がありますマッチングクリエイターの相談対応件数等が、基準値に比べて大きく伸びております。

その他の指標については、概ね順調に推移しております。以上でございます。

中根委員

今の報告について、各委員から何かご発言はありませんか。

ないようでしたら、次に、「包括的産業支援施策構築における基本設計委託成果報告」について、吉田部長より報告をお願いします。

吉田産業経済部長

本件に関して、先日議会で報告したところです。昨年度実施した内容を冊子にまとめております。

産業施策に精通した企業と共に、現在産業経済部が行っている事業内容を見ていただいた上で、様々な立場で活躍されている方々のインタビューや、毎年行っている事業の報告書等をもとに、各事業の強み弱み等を明らかにするような作業を行いました。冊子の9ページをご覧くださいと、今回分析した主な事業を掲載しております。

部内の事業については、営業力を身につけていただいたら、販路拡大の事業に、といった具合に、段階的にご参加いただける内容となっております。こういったものを組み合わせて、こういった効果が出ているかを、把握していきたいと考えております。

各事業についての分析は、冊子の11ページ以降をご覧ください。ここで、こういった魅力ポイントがあるか、どんな改善検討をすべき事項があるか、改善検討の方向性等を掲載しております。

例えば足立ブランド認定推進事業については、企業の技術を評価し、企業を認定するという取り組みは、軸がはっきりしていて、とても良いのではないかといい意見を外部の企業からいただきました。一方で、検討すべき事項として、露出を増やし、効果を上げる取り組みを強化した方が良いのではないかといい意見もいただきました。

すでに、足立ブランドについては、紹介冊子のリニューアルをしており、国際雑貨EXPO出展においては、ブースレイアウトをバイヤー等の来場者が入りやすい工夫を施し、事前のPRにも力を入れた結果、過去最高の来場者数を記録しており、今回の分析の効果が現れているものと認識しております。今後も、各事業のブラッシュアップをしていきたいと考えております。

冊子の13ページには、あだちメッセに関して記載しております。今回の調査以外にも、個別に区内の企業を訪問して、お話を伺っておりますが、あだちメッセに関しては、出展社数が大規模見本市に比べて少なく、スケールメリットが出しづらいつの声を多くいただいております。また、出展する企業が固定化してしまっております。こうした背景もあり、今年度のあだちメッセについては、休止させていただきます。あだちメッセのような展示会については、全国的に伸び悩んでいるようで、その道のプロが行う大規模な展示会についても、集客には苦労されているようです。冊子に記載のように、今後の方向性としては、ビジネスチャンスをいかに創出するのか、学ぶ機会をどのように提供するのかがいい検討をすすめ、あだちメッセの再構築を図りたいと考えております。

15ページ、16ページについては、起業家の育成事業を記載しております。創業するなら足立区でのキャッチコピーを掲げ、比較的恵まれた環境を整備できているのではないかと考えております。

外部の方からは、区内の活性化に寄与する起業家を計画的に集積していく必要があるのではないかとのご意見をいただいております。

今後の方向性としては、足立区は都内進出の起点としての地理的特性があり、何かを集積していく場所としては良い場所なのではないかといい意見もいただいておりますので、今後検討を重ねてまいります。

冊子の17ページ以降は、比較的小さな事業について、現状との今後の方向性等を載せております。

会議資料20ページにお戻りください。今回の委託結果を元に、現在資料に記載した3つの事業について、企業からの提案を募集することとし、参加表明を先日締め切ったところです。提案を求める主な内容としては、販路拡大や売上向上に資する人材を区内に呼び込んでもらう取り組み、地域特性を踏まえた創業・起業の取り組み、効果的な取り組み、といった内容です。どのような提案が今後あがってくるかわかりませんが、8月の末には企業を決定し、新たな事業を構築したいと考えております。特に、これまで手薄だった区外、海外等を視野に入れて、企業選定を行ってまいります。

中根委員

今の報告について、各委員から何かご発言はありませんか？

では、私から1点質問させていただきたい。会議資料の21ページを見ると、相対的には足立ブランド認定推進事業がうまくいっているようだが、いかがでしょうか。

吉田産業経済部長

この事業の効果は高いと考えているが、その効果をいかにPRしていけるかが、この10年来の課

題となっている。資料の22ページをご覧ください。当事業の満足度は高いため、PRを効果的に行うことができれば、さらに効果は高まると考えている。

また、22ページの右側に創業・起業した企業の区内定着について、数字を載せているが、創業支援施設に入居する段階から、区内で活躍する企業に成り得るかどうか等の視点から、企業選定を行っていきたいと考えております。

情報通信業の定着については、低い数字となっているが、スキルの高い人材が集まる場所に、企業が集まる傾向にあり、区内にはそうした人材の集積がないため、定着割合が低くなっていると考えております。ありがたいことに、創業支援施設退室企業の一番の成功例であるオレンジアーチさんは、情報通信業でありながら、区内に定着していただいておりますので、そうした事例を増やしていきたい。

本山委員

創業支援施設は確保していただいております。とてもありがたく思っています。創業支援施設の入居率が低いとの報告が、前回以前の会議にてあったため、心配していたが、創業支援施設を保有していること自体が、創業を支援することのアピールにもなると考えられるため、今後も維持していただきたい。また、オフィス物件の確保については、足立区だけでなく、都内全般的に厳しい面があると思っております。

吉田産業経済部長

事業拡大に伴うオフィス拡充については、物件が限られていることもあり、足立区においてもなかなか厳しい面があることは認識しております。そんな中で、区内に本社を置いて事業活動を行っていただける企業の方の存在を、大変ありがたく思っております。

今回、創業支援施設の入居審査等について、本会議の専門部会からはずさせていただきましたが、今後はそれぞれの委員会において、独自の人选が可能となるため、足立区に愛着のある方にも審査員をお願いしたいと考えております。そうすることで、長く足立区で事業活動を行っていただける企業を選び、支援していければと思っております。附属機関化の意味合いがこうしたところにも活かされてくるかと考えております。

中根委員

22ページに、区の特性を活かせていないとの記載があり、こうした受け止め方は妥当であると考えているが、区の特性を出すためのグランドデザインのようなものはお持ちでしょうか。

吉田産業経済部長

新たな事業委託の中でそうした内容の提案を求めていますので、今年度の取り組みについては、その内容による部分が大きくなります。今年度の取り組みを見て、地域特性の活かし方を模索していきたいと思えます。また、これまで足立区の創業支援施設入居企業に対する伴走支援については、インキュベーションマネージャーという職員がゆるやかに行っていましたが、今後はもっと密に寄り添い、様々なコンテスト等にチャレンジできるような企業を増やせるよう、伴走支援をしていくことを検討しております。

中根委員

区の産業への関わりの中で感じたことは、例えば大学のOG、OBのような方は一定期間足立区にコミットしている方なので、足立区への愛着が醸成されていることと思えますが、そうした方から、創業支援施設の入居申請をいただくことはなかったように思います。

阿高委員

学生に対して、何か手を打たないと、起業をしようとする発想があまりないのが現状です。東京電機大学卒業生で、経営者をやっている方々が経営同友会という組織を作っていて、学生に対して起業精神を持ってもらう講座などを行っています。現在、東京電機大学の卒業生が、インキュベーション施設に入居しているかと思えますが、どんどん若い起業家が出てくると良いと思えます。

吉田産業経済部長

企業の副業を認める風潮が広がっており、様々な機会を通じて、若い方に関わっていただけるとよいと思えます。

また、少し話がそれますが、経済産業省の事業として全国20箇所の地域において、地域の企業を

応援するローカルデザイナーを育成する事業が始まろうとしており、足立区もその対象として選んでいただきました。今後事業が展開されていく予定ですが、事業の見直しや、様々な委員会の実施方法を変えるなど、何かを変えようと動いたことで、人脈が広がり、こうしたお話をいただけたものと思っております。是非、区内の大学の方にも、様々な場面で関わっていただけたらと思っております。

阿高委員

報告になりますが、私も先日国際雑貨E X P Oを視察いたしました。今回のブースレイアウトはオープンスペースになっていて、とても人が入りやすくなっていて、閑散としているブースもある中で、足立区のブースはとても賑わっていました。

帯川委員

ローカルデザイナー育成事業の対象となったとのことですが、このデザインの範囲はどういったものですか。

吉田産業経済部長

広範囲に及ぶようで、建築、ITの方なども含まれるようです。足立区に対しては、研修場所の確保や、デザイナー募集の協力を依頼されております。今後この事業への参加を希望するデザイナーの方を募集し、応募者に講座等を受講していただいた後、区内企業の課題解決にあたっていただき、成果発表を年度内に行う予定と聞いております。

帯川委員

近年、デザイン思考は流行となっており、世界的にデザインが注目されております。是非、広い意味での支援、今後の経済効果等をお考えいただきたいと思っております。

中根委員

私の大学の話をしていただくと、私は以前就職センターの責任者を務めていて、現在学生は売り手市場で、大手も採用を早めており、外資系企業も経団連の倫理規定等に縛られず、かなり早い段階から内定を出しております。学生は、そうした背景も理解しており、ベンチャー企業よりも安定した企業を志向する傾向にあります。また、かつては最終製品を扱う企業の人気が高かったが、現在は名前を知らなくても、ニッチ市場のトップシェアを握っているような企業に、学生が目を向けています。そういう意味では、起業するという志向性は薄れているように感じる。起業や不安定な企業、知名度が低い企業への就職は、親が口を出すようです。足立区には多くの大学が集まっているが、大学生にどのようなインセンティブをつけ、学生に起業志向を持ってもらうかは、考えていかなければならないと思っております。

吉田産業経済部長

産業経済部では、国内外の見本市出展に対して助成を行っており、この事業に対して区民評価委員からは、成果が見えにくい等のご意見をいただきました。ですが、企業訪問をする中で、海外の見本市への出展は、自社のマーケティングやブランディングに生きてくるというお話しを伺っており、採用の面でも効果があるようです。雇用に関する各企業の声についてもしっかりと聞き、今後の施策に活かしていきたいと考えております。

中根委員

各委員から他にご発言はありますか。

ないようでしたら、次に、報告事項の4 第2回「あだちの輝くお店セレクション」について、望月課長より報告をお願いします。

望月産業振興課長

23ページをご覧ください。テーマに沿った区内のお勧めの店舗とその一品を募集・発表し、区内外に紹介することで、区内産業・地域の活性化を目指す取り組みとして第2回「あだちの輝くお店セレクション」を実施いたしました。昨年のテーマとして、「町中華」を設定し、1,660件の推薦をいただきました。29年度実施時は推薦数が370件程度だったため、大幅に数を伸ばすことができました。推薦店舗数が229件となり、このうち、発表に承諾をいただいた上位10店舗を区が大々的に紹介をしているところです。

25ページが、推薦募集のチラシ、26ページが実際に選ばれた店舗のチラシ、27ページは各マ

スコミで取り上げていただいた実績でございます。テレビでも放映していただいたおかげで、大きな反響があり、今回紹介した店舗の中には、行列が出来ているところもあると聞いております。

28ページは、散歩の達人に取り上げていただいた記事となります。以上です。

中根委員

今の報告について、各委員から何かご発言はありますか？

私から1点質問させていただきます。今回の推薦数のうち、イベントでの推薦が最も多いようですが、対面で推薦を呼びかけるのが効果的なのでしょうか。

望月産業振興課長

様々なイベントで推薦を呼びかけたことで、多くの推薦をいただきました。直接お会いして呼びかけを行うことが、効果的であると実感しております。

中根委員

ウェブによる推薦が多いのかと思っていたので、意外に感じています。ウェブによる推薦は、若い方に多いのでしょうか。

望月産業振興課長

ウェブによる推薦は若い方が多かったと思います。

渡井委員

本事業については、あだち広報での周知はされたのでしょうか。

望月産業振興課長

あだち広報にも掲載しております。

渡井委員

足立区では、足立ブランドの取り組みはあるが、食に関するブランディングはないので、こうした取り組みは今後是非がんばっていただきたい。特に麺類の野外でのイベントなどは、保健所が非常に厳しく、なかなか実施できないので、こうした形の食に関するサポートは是非継続していただきたいと思います。お菓子メーカーさんが足立区には多く立地しているので、おみやげやお菓子などをピックアップしたイベントなども是非考えていただければと思います。

吉田産業経済部長

この取り組みについては、シリーズ化し、ある程度まとまった時点でまた別の取り組みをやりたいと考えています。また、昨年度選ばれたお店については、今年の秋のイベントと組み合わせた企画を考えておりますので、単年で終わりにするのではなく、後に続くような工夫をしていきたいと思っています。

伊藤委員

こうした事業を単発で終わらせるのではなく、どのようにつなげていくのかを考えていただきたいと思います。本日も様々な業種の方々が集まっておりますし、感度の良い若い人たちと連携するなどして、千住だけでなく他の地域にも波及させ、広げていっていただければと思います。

帯川委員

東京メトロのコマーシャルにて、足立区が取り上げられ、足立区の名前が関東圏で知られるようになったのではないかと思います。北千住の楽しそうなところをご紹介いただいたので、こうした機会を活かして、もっと足立区が盛り上がるような取り組みをしていただければと思います。

瀧野委員

今回の「町中華」の推薦対象は、足立区の方が経営されている店舗なのか。チェーン店の店は対象となっていないのか。今回の上位10店舗の中に、チェーン店が入っているように思うのですがいかがでしょうか。

望月産業振興課長

チェーン店は区内に本店があって、ある程度の店舗数が区内にあるお店を対象としており、全国展開しているようなチェーン店は対象から外しております。

瀧野委員

なぜ、「町の中華」というテーマにしたのでしょうか。個人的には、中華よりもお寿司の方が気になっているので、お聞きしました。

望月産業振興課長

いずれは、お寿司屋さんも取り上げることになるかもしれませんが、職員でテーマを話し合い、中華に決定いたしました。今後、洋食や和食など、皆さんが投票できるようなテーマを選んで、続けていきたいと考えております。

瀧野委員

高齢者が増える中で、大学の方にも高齢者に目を向けてもらいたい。また、商店街の活性化についても、確実に活性化しているとはいえない状況にあると思いますので、長年消費者行政に携わってきた立場から、商店街の今後については見守っていききたいと考えております。

吉田産業経済部長

今年度の新規事業として、商店街の街路灯を全て点検させていただいております。倒壊の危険があるとされた街路灯については、区の補助額を増額して、撤去していただくよう取り組んでおります。これまでの補助金では、補助額が少なかったこともあり、今年度から補助率4/5の補助金を設けております。街路灯については、商店街の方々のご負担になっている面もございますので、これを機に、危険な街路灯については撤去していただき、区の街路灯に切り替えていければと考えております。

瀧野委員

最後に、プレミアム付き商品券について、多くの方がその対象となるかと思いますが、その方々には個別に連絡がいくのでしょうか。それとも、希望者が手続きをとる形なのでしょうか。

松本プレミアム付商品券担当課長

まず、この商品券の対象者としては、低所得者層と子育て世代の方々の一部を合わせて、16万4千人ほどとなります。対象者の方には、個別に通知をお送りし、手続きを進めていただきます。なお低所得者層の方は、申請をしていただく必要があります。

瀧野委員

今回対象となるの方々の中には、商品券を買いたくても買えない方もいるのではないかと思います。いかがでしょうか。

松本プレミアム付商品券担当課長

国が設計した制度自体が、プレミアム付き商品券を買っていただく形をとっており、過去に実施した臨時福祉給付金等とは、違うやり方となっております。

瀧野委員

今回の券を手にして、家計が助かる方もいる一方で、買いたくても買えない方もいるかと思えます。その点はいかがでしょう。

松本プレミアム付商品券担当課長

今回の制度として、一旦券をお買い上げいただくことがどうしても必要です。そのため、購入いただいた券がより使いやすいものとなるよう、使用できる店舗を1店でも多く増やしていくことに、力を注いでおります。

望月産業振興課長

例年、商店街連合会が発行しているプレミアム商品券については、プレミアム率を10%としており、今回のプレミアム付き商品券よりもプレミアム率が低いことや、プレミアム率の異なる商品券を発行することによる混乱を防ぐことを理由に、今年度の発行は見送っております。その分、商店街連

合会では、オリンピックが開催される年でもある来年度、プレミアム率を20%に設定し、商品券を発行することを考えております。

瀧野委員

私自身は、こうした券を無料で配布することはよくないと思っておりますので、今回のような取り組みは、ありがたいと思っております。

山崎委員

商店街に関連した話題を多数あげていただき、ありがとうございます。輝くお店セレクションについては、昨年度で2回目となりますが、商店街としても積極的に協力させていただきました。商店街に加盟していないお店もありますが、こうした取り組みは数年前まで千住地域で実施していたものを、足立区全体に広げたものと認識しており、我々としても参考にさせていただければと思っております。

また、街路灯については、危険と判断された街路灯が、想定よりも多数あるようです。商店街によっては、さらなる補助を求める声も聞かれますが、区の方で色々取り組んでいただけるということで、大変ありがたく思っております。

中根委員

他にご意見がなければ、次第の4、情報提供にうつりたいと思います。担当の課長より、説明をお願いいたします。

望月産業振興課長

30ページをご覧ください。産業展示会「あだちメッセ」の開催結果についてです。資料にありますとおり、出展者による製品、技術等の展示、足立区しんきん協議会との連携による区内企業同士の商談会、全国から招待した区外企業との商談会、そしてビジネスセミナーを3つ行いました。開催日時は平成31年1月24日から1月25日、シアター1010の10階及び11階を使って行いました。昨年度の特徴として、区外から17社が出展し、商談を行ったほか、デザイナー企業6社が相談ブースを設置し製造業とデザイナーのマッチングを行いました。

31ページをご覧ください。出展者の内訳、来場者数や来場者の内訳等を記載しております。29年度と30年度を比較すると、来場者数が300人ほど減少しており、出展者の確保にもかなり苦労を要したことも踏まえ、本年度のあだちメッセについては休止とさせていただき、さらなる企業の販路拡大を目的に、魅力ある事業を再構築したいと考えております。

続きまして、32ページでございます。区内の優れた技術や製品を有する企業を認定し、広く周知する事業である足立ブランド認定推進事業ですが、新規認定の応募企業数が3社、認定数が3社となっており、3年に1回再認定を行っておりますが、この数が13社となっております。書類選考等を行い、認定いたしました。新規認定と再認定企業については、33ページに記載しております。新規認定については、高級婦人服の縫製をしている株式会社マーヤ、プラスチック射出成型及びブロック玩具製作をしている、ミユキ精工株式会社、バルーン使用による企画演出、バルーン製造等を行っている株式会社エアロテックの3社でございます。

再認定企業については記載のとおりです。32ページにお戻りください。既認定企業、再認定企業、新規認定企業を含め、認定企業数は56社となっております。新規認定企業については、足立ブランドの紹介冊子への掲載や、国際雑貨EXPO等の展示会への出展を通じて、PRしていきたいと考えております。以上でございます。

高橋観光交流協会事務局長

続いて、平成30年度から令和元年度現在の観光イベント開催結果について、ご説明させていただきます。

まず、次の花火大会が迫っているところですが、第40回足立の花火については、晴天にも恵まれ、非常に暑い中での開催となりました。節目の花火ということで、花火の発数も1万3600発とし、新しい試みとしてWナイアガラやレーザー演出などを行いました。PRについても区内外で行った結果、70万人の来場者にお越しいただくことができました。

続いて、あだち区民まつり「A Festa 2018」については、平成30年10月6日のみの開催となりました。例年土日の2日間開催してありましたが、10月7日については台風接近が見込まれており、前の週の10月4日の時点で、区の防災セクションの意見を聞いた上で、区長等とも協議し、早めに中止を決定いたしました。早期に7日の中止を決定し、周知した結果、6日に多くの方が足を運んでいただき、来場者数は22万5千人となりました。台風の接近等に

伴うイベントの中止について、すばやく多くの方に周知することの大切さを学ぶ機会となりました。続きまして35ページでございます。冬のイルミネーションイベント、「光の祭典2018」を開催いたしました。昨年12月1日から25日にかけて開催し、竹ノ塚駅と元淵江公園の街路樹は平成31年1月14日までライトアップいたしました。点灯時間、会場等は例年どおりでございます。来場者数は一昨年以上の24万8千人となりました。昨年度の特徴としては、8つの物語のワンシーンを再現したオブジェや、フォトスポットになるようなオブジェを配置し、インタグラムなどに取り上げていただく方も多く、好評を得ることができました。

続いて、舎人公園春のイベントについてです。千本桜まつりについては、4月6日、7日に開催いたしましたが、それに先駆けて、3月23日から4月7日まで、桜のライトアップを実施いたしました。桜自体の見応えが出てきたことと、ライトアップ自体の認知度が上がってきたこともあり、多くの方に見ていただくことができました。私が現場に足を運んで様子を見たところ、ライトアップを目当てに来場されていると思われる方々が多くいらっしゃり、新しい観光資源として根付いてきたように感じております。また、36ページに記載しております、千本桜まつりについては、桜の開花がちょうど満開を迎えた頃開催となり、お天気にも恵まれた関係で、昨年度以上の来場者数となりました。出展者の方々からも、多くの利益が出たとの声をいただきました。また新たな取り組みとして、スポーツイベントの開催を区から要望されていたこともあり、桜の中の雪合戦を開催いたしました。こちらは、雪を降らせるわけではなく、かき氷のような、氷を削って玉を作る機械を用いて行いました。新しいイベントだったため、人が集まるか不安でしたが、蓋をあけてみれば親子連れが多くいらしていただき、整理券も配布終了となるなど、盛況でした。今後、千本桜まつりの風物詩としていければと考えております。

直近のイベントとしては、しょうぶまつりと世界の食広場ということで、6月1日、2日にしょうぶ沼公園、都立東綾瀬公園を会場として開催し、観光交流協会は世界の食広場を担当しました。当日は、晴天ではなかったものの、暑すぎず寒すぎないちょうど良い気温で、昨年度より多くの来場者を記録しました。特にしょうぶ沼公園内が整備されたことにより、来場者数を増やしました。また、公園の整備や、北綾瀬駅の駅舎の改修が終了し、直通運転が開始されたことに伴い、オープニングセレモニーの開催場所を、これまで開催していたハト広場から、しょうぶ沼公園に変更いたしました。今年のオープニングセレモニーは来場者の方にも好評でしたので、来年度以降もこのやり方を継続していきたいと考えております。加えて、東綾瀬中学校にて、環境フェアを同時開催と銘打って実施し、3つの会場をつなぐスタンプラリーの実施を協会が担当いたしました。来場者の回遊を図った結果、これまでと違ったお客様が各会場に足を運んでいただき、環境フェアについても盛況であったと聞いております。私からは以上です。

中根委員

今の説明について、ご質問ご意見がありましたら、発言をお願いします。

伊藤委員

千本桜まつりについて、4月6日、7日の開催日というのは、例年の桜の開花時期とは少しずれる日程かと思えます。今後も継続してイベントを実施していくかと思えますので、桜の開花時期にイベントを設定した方が良くと思います。

入江委員

インバウンドマーケットについて、2012年に1千万人だったものが、昨年4千万人に届きそうなどころまで来ております。エンブレムホテルの宿泊者についても、2回目、3回目の方が増えてきていて、なぜこのホテルを選んだのかを聞いたところ、田中商店（ラーメン屋）に行きたいからと聞いておりました。かなりマニアックなところまで、海外の方の関心が向いていると感じています。インバウンドの数がこれだけ増えている中、これだけ素晴らしいイベントを実施されているので、インバウンドマーケットに向けた周知をどのように考えていらっしゃるのか、また、もし取り組みをされているのであれば、その内容を教えていただければと思います。

高橋観光協会事務局長

足立の花火に対する、外国からの問い合わせが急増しておりまして、英語のメールが毎週のように届いております。協会では、区の姉妹都市でありますベルモント市との事業を行っている関係で、通訳の方が週3回出勤しており、その方に翻訳等の対応をしてもらっています。花火はかなり人気がある

ようですので、花火の情報を充実させていくことと、地域のコアな情報を取材していただき、協会のホームページに掲載しているのですが、こちらは多言語対応をしておりますので、こうしたところにも力を入れていきたいと思っております。また、外国語の情報誌は作っていませんでしたが、昨年末から日本語と英語を併記した資料を準備しております、地域のコアな情報も盛り込みながら年2回ほど発行したいと考えております。こちらについては、足立区の近隣区内のホテル等に置いていただき、足立区まで足を伸ばしてもらえようように取り組んでいきたいと思っております。

小早川委員

ものづくりの立場からお話をさせていただきます。あだちメッセに関しては過去8回開催され、ここで休止するという点について、個人的に大変良い決断だったと思っております。私自身も初回、2回目、それ以降も何度かあだちメッセに出させていただきますが、マンネリ化は非常に感じておりました。ここで一旦見直すというのは非常に良いことだと思っております。そこで質問ですが、展示会をやるスペースはとても限られており、マンネリ化は出展企業が固定化しているところが要因かと思うのですが、他区との連携について、何かお考えはあるのでしょうか。

望月産業振興課長

台東、荒川、足立、墨田、葛飾の5区で、TASKプロジェクトを実施しておりますが、こうした区と連携して展示会を実施するのも、一つの手ではないかと思っております。

吉田産業経済部長

荒川区についても、展示会を休止しており、どの自治体も、展示会については悩みを持っているようです。現在、隣接する草加市ともつながりを持っていますので、行政区域に関係なく、つながりを持ち、今年度何か仕掛けられればと考えております。また、有力な見本市を開催している事業者が、京都で行った展示会の事例では、オープンファクトリーを3日目に設定し、好評を得ているとの情報を耳にしています。そういったことも模索していきたいと考えております。そういった取り組みに、ご協力いただくことは可能でしょうか。

小早川委員

確実に時代の流れはそうした取り組みに向かっていっていると思っております。東京都の中では、墨田区のオープンファクトリーが成功しておりますので、やり方次第かと思っております。

また、あだちブランドの話にもなりますが、事業開始から10年以上経ち、認定企業が56社となっている中、この事業にかかる予算をお伺いし、こんなに経費をかけていただいていることをありがたく思うとともに、もっと他にやり方があるのではないかと考えております。つい先日の展示会についても、16社が出展したとのことで、いくつもの展示会を無料で出展させていただいていますが、56社の中の一部の会社に対して、予算を投下していると考え、違った予算の使い方があるのではないかと考えています。他区に比べて、足立ブランドはとても恵まれていると思っております、行政に1から10まで全て道筋をつけていただき、そこに企業が参加しているのが現状かと思っております。今後、出展したい方については、区の補助と合わせて、各社が一部負担することをご検討いただければと思っております。経費を負担してでも出展したいという積極性が重要であり、無料だから出展しましょうというのは、違うと思っております。また、より民間企業主体で動ける足立ブランドが理想だと考えており、オープンファクトリーも絡めて展示会をやりましようとなった時には、民間企業の代表者の声をたくさん聞いていただきたいし、そうした形をとると、より成功に近づくのではないかと考えております。諸々ご検討いただければと思っております。

吉田産業経済部長

見本市だけでは通じない部分が、オープンファクトリーとして工場を実際に見ていただくことで伝わり、感激にもつながる部分があると思っております。私自身、工場を訪問させていただくと、とてもワクワクしますし、現場を見ていただくことはとても重要だと考えております。あだちメッセを休止した今こそ、新しい取り組みなどを見聞きしながら、良いものは取り入れていきたいと考えております。また、先ほどおっしゃっていただいた、民間主導で行うという点については、まさにそれが理想だと考えております。足立ブランドの皆さんのご意見を伺うと、小早川委員のおっしゃるように、お話しいただく企業もあれば、下請けの仕事が中心で、営業も含めてこれから勉強していきたいといった企業まで、様々なステージの企業が足立ブランドとして一緒になっているので、力のある企業には、存分にその力を発揮していただくなど、企業の状況に応じた内容にしていくことを検討していきたいと思っております。阿高委員いかがでしょうか。

阿高委員

私も、小早川委員と同じ考えをもっています。区役所の方々が非常に一生懸命やっただいていただくため、逆に企業の自主性が損なわれてしまうのではないかと危惧しております。もう少し、場の提供をしつつ、自主性を引き出すような工夫が必要かと思えます。仮に区が予算を投下しなくなってしまうと、足立ブランドの活動はなくなってしまう可能性が高く、自主的な活動を促すようにしていくことが、長続きすることにつながっていくと思えます。

また、展示会についても、東京では数多く実施されており、東京都が行う展示会も東京以外の地域からの出展が増えている一方、来場者は年々減少しているように感じています。今まで、都との付き合いで、大学自体も出展していましたが、今年からはやめてしまいました。

今後の展示会については、従来と違う取り組みをしなければ、来場者が集まらないかと思えます。

オープンファクトリーについても、最初は新規性があるかもしれませんが、数年経つと魅力が減ってってしまう可能性があります。金属加工などをみると、工業会が展示会を行っていて、比較的盛況です。専門性の高い展示会も行われていますので、展示会のやり方は、よくよく検討が必要かと思えます。

岡田委員

他区との連携は、消費者センターも同様で、各区でやっているとそれぞれが集客に苦労されているようなので、限られた予算の中でやるのであれば、他区と連携して、地の利のいい場所でやるのが良いかと思えます。

足立ブランド、あだちメッセ共に、区内だけでとどまっているのは、もったいないと思えます。区外、海外に発信しなければならない時代ですので、他区と連携することで、発信力を強化すると良いと思えます。

また、「輝くお店セレクション」について、次のテーマについての話が出ておりましたが、足立区には様々なおいしいお店があるので、テーマを決めるのは大変かと思えます。全国からお店を集めた大会をやるのではなく、区内のおいしいお店を区民に知ってもらうことが大事かと思えます。先ほどもお話しが出ておりましたが、こうした取り組みを一発で終わらせるのではなく、次々とつなげていただければと思えます。

なかだ委員

オープンファクトリーについては、ただ見学して終わりではなく、そこでの体験やスクールのような取り組みが大切かと思えます。個人的に水彩画教室を始めており、その経験から申しますと、足立ブランド各企業の内容を見て、区民が習いたいと感じる内容が多いように思いました。子どもたちには、足立で働く意識付けになるかと思えますし、産休中の主婦などは、新たな取り組みを始めてみたいと思う方がいたり、高齢者の方は、そもそも学習に対する意欲が旺盛であったりと、様々な層に対して、スクールが先にあると良いかと思えます。企業側にとってみても、一般区民と接点を持つことで、今まで得られなかった気づきを得る機会になるかと思えますので、良いのではないのでしょうか。

望月産業振興課長

子どもに対しては、夏休みに工場見学やものづくり体験を実施しております。今いただいたご意見を、参考にさせていただきたいと思えます。

阿高委員

統計データについて、これまで区から示された資料には、介護や福祉の事業者が多いとの情報があったかと思えますが、今回の資料の中ではサービス業に含められているのでしょうか。

吉田産業経済部長

サービス業に含まれております。

阿高委員

福祉、介護の事業者は、足立の産業の特徴かと思えます。統計ごとに数字の出方が違うと、過去との比較等に不都合ですし、独立した数字を出した方が良いかと思えます。

吉田産業経済部長

今回お示した景況調査については、業種ごとに分類した事業者の一部に対して、アンケート

を郵送し、ご回答いただいた結果を集計する手法をとっております。よって、サービス業の中で、福祉、介護業種に該当する事業者の調査数は、四半期ごとの調査で一定ではありません。よって、本調査は区内企業の景況のおおまかな傾向をつかむことしかできません。

区内企業の一定数の情報については、調査会社から購入しておりますが、全社の情報を把握することはできない状況です。

真田委員

先ほど、ものづくり体験のお話が出ましたが、秋に開催しております、ものづくりフェスタについては、多くの企業のご協力のおかげで、様々なものづくりの体験ができるということで、例年多くの子どもに來場いただき、盛況なイベントとなっております。今年も11月に開催を予定しております。ものづくりに目覚める子どもたちが増えてくれればと思っております。最近の子どもたちは、ものづくりの現場を間近で見る機会はなかなかないため、そうした機会を設けることができ、嬉しく思っております。

また、食のイベントに関して、足立区はスイーツの美味しいお店がたくさんあります。若い人への訴求や、インスタ映えを狙った人々を取り込むためにも、スイーツは欠かせないものかと思えます。そうした企画についても、ご検討いただければと思います。

加えて、9月に異業種フォーラムの開催を予定しております。昨年度も150人の方にお集まりいただきましたが、今年度はただ名刺を交換するだけではなく、自社のPRをしていこうということで、色々仕掛けを考えております。委員の皆様方もご都合がつけば、是非ご参加いただければと思いますので、よろしく願います。

青木委員

イベントのお話がありましたが、農業関係としては、様々なイベントに出展し、野菜の販売を行っております。区民の皆様へのPRということで、毎回好評をいただいております。また、昨年度から農地の貸借ができるようになり、一般企業も農地を借りることができるようになりました。これにより、一般企業が農地を借り、そこを体験型農業の場として提供する取り組みが、区内でも数箇所始まっております。お近くにそうした場所がございましたら、是非よろしく願います。

また、輝くお店セレクションについては、他の委員からも発言があったように、次々と展開していただきたいと思えます。また、こうした取り組みで取り上げられるお店と、農業とのマッチングができると、農業関係者としても関わっていけるのではないかと考えております。

中根委員

他にご意見のある委員の方はいらっしゃいますか。ないようでしたら、本日の会議はこれで終了いたします。ご協力ありがとうございました。

海老原産業経済協創担当係長

中根会長ありがとうございました。それでは、これもちまして、足立区経済活性化会議を閉会いたします。本日はお忙しいところ長時間にわたり、ありがとうございました。

以上